

平成25年度 地域力向上事業 市民提案による住みよい地域づくり助成事業 事業評価一覧

件数	総事業費	市執行額
10件	8,227,688	3,689,000

単位：円

事業名	提案者・事業実施者	事業内容	事業効果	事業実施状況	総事業費(補助金額)	事後評価
1 市民協働プロジェクト「みをつくし劇団」	みをつくし劇団	世代を問わず、キャスト・スタッフを公募し、稽古や準備を行い、公演する。演劇は、北区の歴史や文化をモチーフにした内容とする。	1 地域の歴史・文化の発信。 2 身近な演劇の鑑賞機会の提供。 3 制作に携わった市民の絆づくり。	劇団員の募集：団員数 14名（北区を中心に、子どもからお年寄りまで幅広い年代が参加。） 客演：細江文化協会演劇部5名 6月から2月まで、週1・2回の稽古を実施。 みをつくし劇団公演 公演日：平成26年2月23日（日） 昼の部 午後1時～2時30分 夜の部 午後6時～7時30分 会場：みをつくし文化センターホール 演目：「井伊谷赤鬼伝」 当日スタッフ人員：25名 観客動員人数：昼公演 400人 夜公演 300人	1,452,000 (560,000)	地域の歴史を題材にしたオリジナル作品を手掛け、700人の観客を動員したことは、地域文化の発信や市民に演劇を身近に鑑賞する機会を提供することに寄与したものと認められる。また、劇団員を募集し、年間を通じ演劇に取り組んだことは、北区の文化芸術活動の発展に大きく貢献した。 今後は、自主財源や安定した劇団員の確保等の課題解決策を構築するなかで、事業の継続を期待する。
2 「三方原八景」「都田八景」を活用した地域づくり	浜松北地域まちづくり協議会	1 三方原・都田八景をノルディックウォーク 2 三方原・都田八景めぐりと調査研究紙の発行 3 小学4年生による椎茸栽培 4 防風林クリーン作戦	1 「三方原八景」と「都田八景」の地域資源としての認知度の向上 2 次世代を担う子どもたちが地域の魅力や四季を体感することによる地域への誇りや郷土愛の醸成	1 三方原・都田八景をノルディックウォーク・3回計画、2回実施、参加者延べ41名（1回は雨天中止） 2 三方原・都田八景めぐりと調査研究紙の発行 ①小学生を対象とした三方原・都田八景めぐり ・8月23日実施、参加17名（浜松北地域の小学5～6年生） ②調査研究誌の発行 ・常葉大学との連携により、冊子2,000部を作成・配布（現地研修1回、制作打合せ12回） 3 小学4年生による椎茸栽培 ・参加4校、延べ370人 4 防風林クリーン作戦 ・浜松啓陽高校との連携により、1回実施（実施延長6km、参加延べ560名）	996,455 (398,000)	地域内の幅広い年代が事業に参加したことで、地域の年代を越えた連携体制が構築され、若年層の地域愛の醸成にもつながったものと認められる。また、三方原・都田八景を利用したノルディックウォークの取り組みにより、埋もれた地域の資源や新たな地域資源の地域内外への認知度向上にも大きく貢献した。 今後も、地域住民と関係団体との良好な連携体制を維持拡大するなかで、自立した事業としての継続を期待する。
3 ぷらっと鎮玉探訪	ほたるの会	1 ホタル鑑賞の夕べ（6月） 2 重要指定文化財の鈴木家でのホーム・フェスティバル（9月） 3 秋のいなさ路 ぷらっとウォーク（11月）	1 地域の資産を最大限に活用したイベントの実施による魅力発信及び地域外の人々の定住化への促進 2 地域の魅力の再認識と地元への誇りの向上	①ホタル鑑賞の夕べ 開催日：平成25年6月15日 参加者：250人 ・引佐北部小中学校校庭において露店を出し、地域内外の人が集う場所を提供した。また、ホタルの専門家からレクチャーを受け、鎮玉が自然豊かな地域であることを再確認する環境教育の場を提供した。その後、神子川沿いのホタル観賞ツアーを実施した。 ②鈴木家でのホーム・フェスティバル 開催日：平成25年9月22日 参加者：100人 ・国重要指定文化財である鈴木家住宅にて、ミニコンサートや各種パフォーマンスを実施した。近くの梅平お堂界隈では、地域の農産物や趣味の品を販売する軽トラ市を開催した。 ③秋のいなさ路 ぷらっとウォーク 開催日：平成25年11月10日 参加者：180人 ・8kmコースと5kmコースを設け、地域の名所を巡るウォークラリーを実施した。本部である的場公民館では、音楽やダンスなどのプログラムを実施するとともに、各種の出店も展開した。	1,613,400 (806,000)	地域に生息するホタルや文化財の地域資源を活かしたイベントに地域住民が参画したことは、地域の魅力を再確認する貴重な機会になったものと認められる。また、地域外から500人を超える集客を得たことは、中山間地域の集落にとって大きな出来事であり、地域外への情報発信や都市部の住民との交流のきっかけになり得た。 今後は、組織の活性化や人件費に係る経費を見直す等により継続可能な事業として、より多くの人との交流の場になることを期待する。
4 北区・わくわく元気プロジェクト	常葉大学 社会貢献・ボランティアセンター	地域の農産物を販売する「都田朝市」のほか、子供向けオープンキャンパスや健康フェア、クリーンアップウォーキング、地域防犯活動等	1 地産地消の促進 2 子どもの学習意欲の向上 3 健康や福祉に関する啓発と意識向上 4 防犯意識と地域の抑止力の向上等	大学が持つ専門知識や施設・設備を活かした事業を、学生ボランティア中心に展開した。 1 地域団体等との連携強化を目的とした「都田朝市」の開催 11月9日～10日開催、参加団体延べ30団体、来場者延べ約700名 2 地域の子供達に学びの場を提供するための「キッズオープンキャンパス」の開催 8月11日開催、参加者945名（うち子ども583名） 3 幅広い世代に健康や介護を考える機会を提供する「北区・健康フェア」の開催 9月28日開催、来場者198名（うち30代4.2%、40代5.1%、50代12.7%、60代37.3%、70代～40.7%） 4 区民の健康増進と地域の美化を目的とした「健康ウォーク2013」の開催 11月23日開催、参加者延べ97名（当初10月26日の実施予定を、台風接近のため順延した） 5 地域住民と障がい者・児の交流促進を目的とした「スポーツフェスタ」の開催 11月9～10日・30日開催、参加者延べ193名 6 通年の地域防犯活動と連携した「防犯シンポジウム」の開催 10月30日開催、来場者85名	1,440,147 (576,000)	大学が持つ専門的知識及び施設に加え学生のボランティア力を活かし、地域の様々な団体と協働で数多くの参加者を集める事業を実施したことで、地域の活性化に大きく寄与したと認められる。また、若者の地域活動への参画が求められる中、この事業は、学生ならではの感性と知識を十分取り入れた計画がなされ実施されていることは高く評価でき、今後も他事業の参考となるものである。 今後は、地域との連携を更に進める中で、地域に密着した活動を推進していくとともに、自立した事業として継続していくことを期待する。

事業名	提案者・事業実施者	事業内容	事業効果	事業実施状況	総事業費(補助金額)	事後評価
5	細江風の会	第10回細江風あげまつりの開催 ・三方原ミニ風合戦、全国伝統風の競演、ジャンケンゲーム、田原風の披露、風あげ体験等	1 日本各地で育まれた風の歴史、文化、技術の継承 2 地元の歴史である三方原合戦の周知 3 地場産品の紹介による地域活性化	第10回細江風あげまつりの開催 開催日時：平成25年11月24日(日) 午前9時～午後3時 開催会場：浜松市細江総合グラウンド芝生広場 参加者数：約200名(1都11県より風愛好家55団体約200名が参加) 1 平成三方原ミニ風合戦(徳川、武田両軍各々15名によるミニ風合戦) 2 子ども風たこあがれ(親子で風作り教室の開催) 3 全国の風の競演(日本の伝統風や奇抜な創作風、外国製の風の披露、来場者も風揚げ体験) 4 出世大名家康くんとじゃんけんゲーム(家康くんとじゃんけん、勝てば記念風) 5 風のF1「田原風」(愛知県田原市の田原風保存会による名人の妙技の披露) その他、大道芸、物産展等開催 ※風あげまつりを通じて、全国の風愛好家や市民による交流が図られ、風の歴史、文化、技術の継承する機会となった。	418,040 (209,000)	全国の風愛好家55団体の招聘により、風を通じた地域間交流が図られたことに加え、三方原合戦等の地域の歴史をモチーフとした風関連のイベントに多くの市民が参加したことで、風の歴史、伝統文化、技術の継承に寄与したものと認められる。 また、地域物産展の同時開催により、地場産品の一定の認知度向上が図られた。 本事業は、北区の歴史文化を活かした新たな事業として確立されつつあることから、今後は、より多くの来場者を得るための方策を確立し事業効果を高め、事業を継続していくことを期待する。
6	静岡県立浜松工業高等学校後援会	1 高齢者対象のインターネットとセキュリティ講座 2 高齢者対象のメール活用講座 3 小学生から中学生のものづくり教室 等	1 高齢者の社会参加機会の提供 2 地域の子どもたちのものづくり教育の支援	1 高校生の知識や高校の設備を活用した市民向け講座を2回実施した。 ① ものづくり木工教室(小・中学生向け) ・実施日 7月26日 ・参加者 中学生3名 ② 高齢者のためのインターネットとセキュリティ講座 ・実施日 11月16日 ・参加者 高齢者9名 2 参加申込者の少なさから、以下2講座を中止した。 ① 携帯電話で孫とメール メール操作方法 ② 初級プログラミング講座 スマートフォン向け	198,440 (99,000)	この事業は、高校生の知識・感性や高校の施設を活用し、小学生から高齢者までを対象に事業展開をしたことで、地域活動への若者の参画や世代間の交流等に寄与したと認められる。 参加者は少なかったものの参加者個別の評価は高かったことから、今後、高齢者・小中学校団体との連携・協力を得る等の効率的な参加者の募集方法を構築することで、多くの参加者を募り、事業を継続していくことを期待する。
7	金指歴史同好会	平成21年度から編集してきた「かるた形式の冊子」を800部作成し、地域や近隣の小学校・公共施設・社会教育団体に配布し、地域を知る教材として活用する。	1 学校の地域学習や、世代間交流の教材として活用できる。 2 地域外の転入者が地域をより深く知ることができ、地域コミュニティの活性化に寄与できる。 3 北区の歴史的認識を高められる。	・印刷部数800冊、A4版フルカラー85頁、戦国時代から現代までの金指の歴史や旧跡をいろは順のかるた形式で紹介している。 ・「かるた」が写真やイラストであることや「かるた」の背景となる説明文が、子ども用と大人用の2種類を掲載してあることから、子どもにもわかりやすい内容となっている。 ・金指と周辺地域に関する歴史年表、金指の発展地図、旧地名(小字)の由来、金指の歩みと近藤家、金指の著名人等も掲載し、新しく転入してきた住民だけでなく従来の金指の住民も興味のもてる内容となっている。 ・図書館、北区内公共施設等へ寄贈193冊、金指地区ほか希望者へ販売567冊	750,000 (375,000)	製作された冊子は、子供から大人まで興味が持てる工夫がなされており、金指地域の歴史・文化の継承だけでなく、地域愛の醸成や世代間交流のためのツールとしても活用可能なものであると認められる。 今後は、作成した冊子を小学校での教材としたり、地域の歴史を伝えるための活動に活用したりする等、地域コミュニティの活性化のためのツールとして更に活用していくことを期待する。
8	姫街道フォーラムin三ヶ日宿と姫街道検定セミナー	1 姫街道フォーラムin三ヶ日宿の開催(三ヶ日地内の姫街道に關係する講演会やウォーキングイベント) 2 姫街道検定発表セミナーの開催(「姫街道検定」の表彰・解説と講演会)	1 姫街道に関連した地域の歴史に対する理解度が向上できる。 2 自主事業の「姫街道検定」の拡充により、地域への交流人口が拡大できる。	姫街道フォーラムin三ヶ日宿 開催日：平成25年9月21日(土) 参加者数：85人 内容：講演①「姫街道と地震」講師：鈴木義男氏(三ヶ日町郷土を語る会副会長) 講演②赤引きの系、遠州・三州から伊勢神宮まで 講師：下江利幸氏他2名 姫街道ウォーク 開催日：平成25年10月5日(土) 参加者数：65人 内容：佐久目駅～佐久城～姫街道～三ヶ日駅 姫街道検定発表セミナー 開催日：平成26年1月26日(日) 内容：姫街道検定結果の解説及び表彰 検定応募者数：99人(内満点13人) 現地研修会 細江神社・姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館 ※姫街道と周辺の歴史文化を学ぶ中で、交流を図り、次世代への残せる活動が行なわれた。	462,430 (231,000)	姫街道に関連した歴史・文化を広く深く紹介し、後世に継承していくとともに、事業により姫街道の知名度を上げることで、地域の交流人口の増加や地域活性化に寄与していると認められる。 本事業は、北区に限らず、東区や東三河も関わる取り組みであることから、今後は、他地域の関係団体等とも更なる連携を深めることに加え、更なる参加者増加策を展開することで事業効果を高めたうえでの事業継続を期待する。 なお、事業の告知期間が短かったものと見受けられるため、今後の事業継続にあたっては、より円滑に事業を遂行するための計画が求められる。

事業名	提案者・事業実施者	事業内容	事業効果	事業実施状況	総事業費 (補助金額)	事後評価
9 渋川名所大編集	Reメイク わかぶし	1 地域資源の掘り起こし、編集、散策コースの設定 2 ウォーキングイベントの開催 3 案内冊子等の作成、案内店舗等の設定、ホームページによる告知	1 地域住民の地域愛の醸成に寄与できる。 2 既存のイベント等で、散策コースを活用できる。 3 訪れた方の満足度が向上でき、交流人口の増加や地域活性化が図られる。	①渋川の自然、史跡を巡る散策コース制作のためのウォーキングイベント 開催日：平成25年11月24日 参加者：63名 ・渋川歴史と文化を守る会の案内により地元住民及び愛知県美浜町の歴史を愛する会の方々と渋川市街地にある史跡を中心に散策し、おすすめ散策コースを3つ考案した。  ②散策コースの案内板、史跡の看板の製作 開催日：平成26年1月19日 参加者：20名 ・デザイン、製作は全て地域住民の手によるもので、看板書きには地元小学生の親子も参加し実施した。 ・史跡にはそれぞれの案内板・看板があるものもあるが、統一したものでなかったため、統一することにより、史跡の存在がはっきりと目立つようになり、多くの人々が認識しやすくなった。  ③渋川おさんぽマップ、歴史と自然の案内冊子の作成 印刷部数：マップ5000部 冊子3000部 ・史跡の看板とあわせたマップと史跡・自然を説明する冊子を作成した。 ・渋川区内に全戸配布した。また渋川を訪れる人が手にすることができるよう近隣の商店、観光案内所等に設置した。	421,000 (210,000)	地域住民が参画したことにより、史跡・名所の魅力の再認識や地域愛の醸成に寄与できた。また、地域資源を活かしたイベントにより認知度向上や有効活用に繋がったものと認められる。 今後は、作成したマップや冊子を活用し、ホームページによる地域情報・魅力の発信に努め、交流人口が増加につなげるとともに、更なる事業展開により、地域の活性化を期待する。
10 冒険遊び場をつくらう！	みやこだ自然 学校の会	1 「冒険遊び場」づくりと自然遊びの開催 2 専門家による公演会・報告会の開催 3 ツリーハウス等の環境整備	1 子どもたちの心と体の成長が保証される。 2 青年層の自己実現と居場所ができる。 3 子育て世代の交流と癒しの場が提供できる。 4 企業の社会貢献の場が提供できる。	1 冒険遊び場の整備活動 ・11月1日～3月23日（実施延べ10日、参加延べ29名） 2 プレーパークの実施 ・11月30日～2月23日（実施延べ6回、参加延べ80名） 3 プレーパーク専門家の講演会の開催 ・3月8日実施、参加13名	475,776 (225,000)	地域の住民や企業の関わりの中で、「冒険遊び場」の一部開放に至ったことは、地域内交流や世代間交流のきっかけとなり得たことに加え、新たな子供の遊び場の提供により地域に貢献したものの評価できる。また、遊び場の整備活動を通して、学生リーダーの育成や運営ノウハウの集積がなされ、自主運営のための体制が整えられた。 今後は、自立した運営を視野に入れ、予定よりも参加者が少なかったことに対する検証や、一部開放された「冒険遊び場」の更なる活用と情報発信を行うことで、より多くの市民が利用できる体制を整えるとともに、他地域への波及も期待する。